

こころの健康推進事業

= 死亡個票から導き出す地域の特性と対策 =

(実施期間) 平成 24 年度～

(基金事業メニュー) 人材育成事業・普及啓発事業・強化モデル事業

(実施経費) 平成 26 年度 112 千円

(実施主体) 埼玉県ふじみ野市

(112 千円)

【事業の背景・必要性】

自殺対策を行う上で市の自殺の実態を把握する必要があるが、公表されたデータだけでは詳細の把握に限界があるため、まずは死亡個票による実態調査を行い、分析した結果をもとに対象層のアプローチ方法を検討した。

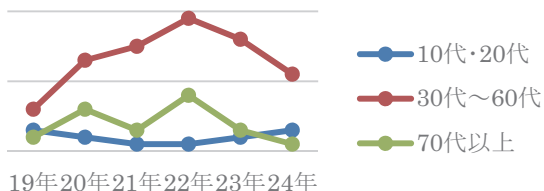
総人口	年齢3区分別人口(割合)		
	年少(0～14歳)	生産(15～64歳)	老年(65歳以上)
112,352	13.8%	62.5%	23.7%

(出典：住民基本台帳平成 27 年 4 月 1 日現在)

【地域の特徴・自殺者数の動向】

都心から 30 km圏内に位置し、地下鉄の相互乗り入れにより交通の利便性がよくなり、駅周辺は商業施設や高層住宅が整備され、子育て世代を中心に人口は増加している。また、郊外には畑や雑木林などの自然が多く保全されており、以前から居住している層と移住により新たな住民となる層が混在している。市内における自殺者数は年間 20～30 人で、年によってばらつきが大きい。

年代別自殺者数の推移



(出典：死亡個票より)

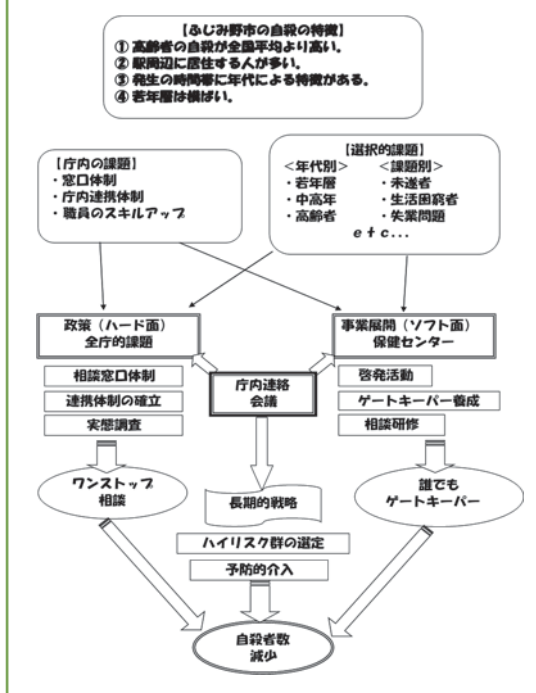
【事業目標 事業内容】

事業開始当初の平成 24 年度は、高齢者の自殺者数が全国平均よりも高い水準であったため、高齢者を対象とした自殺対策を重点的に行った。高齢者を対象とした生きることをテーマにした住職による講話を実施した。

平成 25 年度はさらに対象層を単身高齢者にしぼり、対象者に近い存在である民生委員や地域包括支援センター、ケアマネージャー、ホームヘルパーを対象としたセミナーを実施した。

平成 26 年度は、実態調査の結果を再分析し、若年層の自殺が横ばい状態であることを危惧し、予防対策に重点を置くことに方向性を変更した。教育委員会や各学校との協議を行い、市内小中学校の養護教諭に対する自傷行為や予防教育に関する研修会及び、思春期の子供を持つ保護者を対象とした「自

ふじみ野市自殺対策フローチャート



1 自殺の実態を明らかにする①

分を大切にする」ことをテーマとしたセミナーを開催した。

【事業実施にあたっての運営体制】

保健センターで調査・分析した結果を基に、市内 11 部署の委員で構成された市内連絡会議において対策の方向性を検討した。

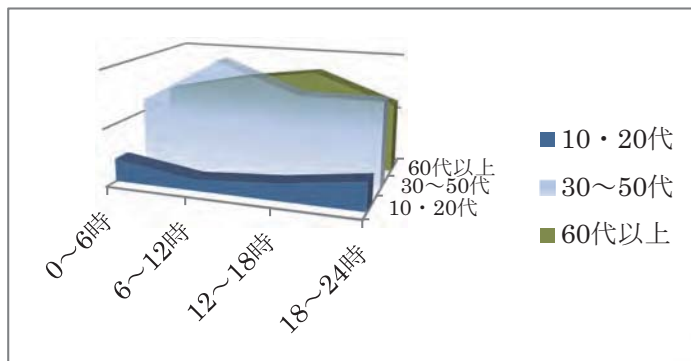
【事業の工夫点】

- ① 対象層と接する機会の多い身近な存在の人や地域で積極的に活動を行っている人を対象とした事業を行うことにより、対象層に啓発が届きやすくなるよう留意した。
- ② 参加しやすいように「人生に定年はありません」「ココロにやさしい食事の話～うつ病予防と元氣回復レシピ～」 「お母さん、自分を大事にしていますか」等興味を引きやすいテーマやタイトルにするとともに、主となる団体や活動拠点に向向き、事業の趣旨を口頭で直接説明することにより、積極的な参加を呼びかけた。
- ③ 配布したチラシの裏面に相談窓口の一覧を掲載した。

【事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

対象層及び啓発の対象者を明確にすることで、より具体的な対策を実施することができた。

また、実態を分析していく中で、自殺の発生時刻が年代によって 10～20 歳代の若年層は深夜帯、30～50 歳代の稼働年代層は午前中、60 歳代以上の高齢層は午後が多いことがわかった。また、住まい別で分布図を作成したところ、駅周辺の地域に集中していた。この地域は所得や滞納等との関連も考えられるため、今後も他部門と連携しながら調査・分析を続け、アプローチする対象層と地域や時間帯等の特性をマッチングさせながら効果的に事業展開していきたい。



年代別発生時間帯（出典：死亡個票より）



（問合せ先）

埼玉県ふじみ野市 保健センター

TEL：049-293-9045

E-mail：kenkoushien@city.fujimino.saitama.jp

URL：http://www.city.fujimino.saitama.jp/